

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-25		
自己評価作成日	平成25年8月17日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改造した建物の為、比較のアットホームな事業所です。また、地域との交流を盛んに行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani%20ue&amp;JigvosyoCd=0110317328-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani%20ue&amp;JigvosyoCd=0110317328-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年9月12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市郊外の住宅街にあり、近隣には小学校や商店、公園があり恵まれた環境に立地している。建物は2階建の一軒家で家庭的な雰囲気である。運営母体は医療法人で内科医院、グループホームきよたⅡ、デイケアセンターが併設されている。医療法人が経営母体で、24時間体制での医療連携があり、バックアップ体制が整っている。職員は日々研鑽し質の高いサービスを提供している。運営推進会議には包括支援センター職員、区社会福祉協議会関係者、町内会役員が運営者や家族と共に話し合いに参加している。家族とは、「ホーム通信」や連絡ノートで情報交換し、日常的な訪問で良好な関係を築いている。地域とは、母体医療法人が長年地域医療に貢献していることから、地域住民の信頼は厚い。利用者は町内会行事や各種催し事に積極的に参加し、相互交流が行われている。高齢者が住み慣れた地域の中で安心して生きがいのある生活を送れるよう支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示しています。新人研修時に理念に基づく支援の指導をしています。	理念はホーム内各所に掲示している。管理者と職員は日頃の職員会議や勉強会で確認し、利用者一人ひとりの尊厳ある暮らしを支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し毎月定例会や子育てサロン、展示会に参加しています。小学校の開放図書館を利用しています。	町内会行事、老人クラブ、子育てサロン等地域の集会や行事に参加している。地区の演芸発表会の参加や小学校図書館の利用等を通して地域の人々との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月に清田中央地区で認知症等高齢者徘徊搜索模擬訓練を開催しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見はホーム会議や議事録でスタッフが共有できるように努めています。	会議は定例に開催し包括支援センター職員、区社会福祉協議会、消防、町内会、家族が参加し、サービス内容や防災等について討議している。討議内容は運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には毎月入居者情報を提出している。地域包括センターとは運営推進会議にほぼ毎月参加して頂いています。	行政担当課とは常に情報交換し協力関係を築いている。地域包括センター、区社会福祉協議会とも運営推進会議等を通して協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間のみとしています。身体拘束などの研修に参加したり、勉強会を行って、身体拘束をしないケアをスタッフで共有しています。	身体拘束についてのマニュアルを作成し、勉強会を行い、職員の認識の共有をはかっている。日中玄関は施錠せず、安全に配慮しながら、身体拘束をしないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、ホーム内の勉強会で発表しスタッフで共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、入居者様、家族様の相談があれば対応出来るように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は丁寧に説明をし、理解と納得が得られるように努めています。改定等に対してはお便りと運営推進会議、個別にご家族様に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口については重要事項説明書に明記し、ホーム内にも掲示しています。毎月のお便りで近況報告をしています。日常的には家族ノートを利用しご家族の意見を聴きスタッフで共有しています。	毎月発行の通信誌「きよめーる」に写真入りで生活ぶりを伝え、家族ノートで詳細な報告をしている。来所時の面談で要望を聴き、苦情受付担当者や外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と管理者は月に2回、スタッフとはホーム会議が月1回あり意見交換をしています。出席出来ないスタッフには議事録や個別に説明し共有できるよう努めています。	職員の意見は運営に反映されるよう配慮している。定期的に行われている全体会議やホーム会議で意見交換する機会があり、運営者と職員の個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は面談を通し評価し、人事、給料を決めている。管理者はスタッフと面談し、労働環境やストレスについて意見を聴き、必要時は運営者に伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフが研修しやすい環境として一定額の費用を負担しています。管理者にスタッフ育成の指導をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区グループホーム管理者会に参加し管理者や職員の交流、勉強会、親睦会への参加に理解をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居の初期段階では、アセスメントを十分に行い、本人が安心して、過ごせる対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のコミュニケーションも大切に考えており、話し易い雰囲気と関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様と面接を行っています。関係機関からの情報提供もお願いし、初期支援の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の介護のレベルに合わせながら、家事等の参加で共に関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、行事の参加やご自宅に帰ったりと、家族で過ごす時間を大切に出来るよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイケアにいる友人に会いに行ったり、面会に来られた際には、居室で過ごす時間を大切にしています。	生活歴を把握し、馴染みの町内会集會等への参加や、自宅への帰省を支援している。来訪者には居室でゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のレクリエーション活動の提供により、入居者様同士が関わりを持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談を受け、支援しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に暮らし方の希望や意向を聞いたり、本人が伝えられない場合は、御家族様から聞いた情報で検討しています。	個々の表情や言動から意向を把握している。家族や個人記録からも情報を集め、本人の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まったら、御家族様にセンター方式の一部を渡して記入してもらい、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努め、全スタッフが共有出来るように記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケース会議を行い、その後には、その都度会議を行ったり、ホーム会議で話し合っています。	家族や関係者の意見を取り入れ、担当者、職員、計画作成者とケース会議で検討している。3カ月毎にモニタリング行う他、状況に合わせ、随時介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアが出来ているかどうか、個別の生活の記録の中でチェックしモニタリングしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに合わせて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり、清田区の色々な施設を利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設機関の定期的な往診と、御家族様の希望を大切に、必要に応じて他科受診もしています。	利用者の希望する医療機関受診を支援している。併設病院からの月2回の往診と週1回の訪問看護で日常健康管理を行い、緊急時には24時間体制での連絡・対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師が、週一回医療連携にきています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と併設医院の医師と相談し、ホームでの対応が可能であれば、早期退院支援を行い、病院関係者との情報交換や相談に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設病院の医師や看護師と連携をとり、スタッフの役割を明確にして取り組んでいます。ご家族様には、入居の際、指針をお渡しして説明、理解して頂き、また運営推進会議でも議題に取り上げて、支援しています。	入居時に家族や本人に「重度化した場合における指針」を説明し、署名捺印を受けている。状況に変化が生じた時は医師、看護師、職員は家族と方針を共有し、出来得るかぎりの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や訓練を行って、迅速に対応出来るようにしています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けたり、勉強会で避難訓練を行い、入居者様が避難できる方法を身につけています。地域の方にも災害時に、協力を得られる体制を整えています。	年2回消防署支援のもと夜間も想定し避難訓練を実施している。地域の人々と併設グループホームとの協力体制も期待できる。スプリンクラー・自動通報システムを設置している。	火災における避難訓練は、消防署指導のもと定期的実施しているが、不審者侵入やその他不測の災害にも備えられるよう、日頃の準備を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けで対応しています。	人生の先輩として尊敬の念をもち、接遇している。個人情報記載の書類取扱い保管には配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が何を求めているのか、訴えているのかを聞き、極力希望に沿う対応をしています。自己決定の難しい入居者様には、選択肢を与えたり、希望を持てる支援を行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいのか、何をしたら楽しんで頂けるかを考え、入居者様が楽しく過ごせるように、希望に沿って支援しています。また、個別の対応も多く取り入れています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気候に合わせて、洋服を変えて、体調や身なりに気を付けています。お出掛けやそれ以外でも入居者様が望む時に、お化粧をして、楽しみを増やしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に無理のないような簡単な作業や15時のおやつ作りなど、調理準備から後片付けまで、スタッフが寄り添いながら、お手伝いして頂いています。	献立は利用者の嗜好を取り入れ、下ごしらえ等、個々の能力に応じて手伝っている。職員と共にテーブルを囲み、静かな音楽の流れる中、楽しい食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に適した食事量、水分量をスタッフ間で把握し提供しています。自力で摂取が難しい方には、声掛けや近くに寄り添いながら摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に声掛け、介助を行っています。また、必要な方は、定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアや指導をして頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをもとに、声掛けや介助を行っています。	一人ひとりの表情、動作、排泄チェック表から排泄パターンを把握し、それとなく誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり、ヨーグルトや牛乳を飲んで頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回、午後から入浴して頂いています。	個々の体調やタイミング、希望に沿って週2回以上の入浴を行い、シャワーや清拭も取り入れている。浴室の衛生、安全にも配慮し入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、お部屋の温度など気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、全スタッフに周知するよう、送り表等の活用をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好みに合ったレクリエーション活動や定期的に個別に外出したり、楽しみを持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を取り入れながら、外出の予定を立てています。ご家族様にも参加して頂けるよう声を掛けています。	事業所行事の花見や紅葉狩りの他、個々の希望や体力に合わせて、買い物や喫茶店通い、子供へのボランティア、地区イベント参加など多様な活動をしている。職員は安全に活動できるよう付き添う等柔軟に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はこちらの金庫で管理しております。必要時には、用意しご本人に買い物を楽しんで頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の使用をしたり、手紙が届いた場合は、返信できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日気持ち良く過ごして頂けるよう、温度や湿度を管理したり、掃除や換気と一緒にを行っています。	居間と食堂は続いており、家庭的な食器収納家具が配置されている。壁には利用者の作品や風景写真、壁時計が飾られ、季節や時間を捉えることができる。採光、温度、湿度、換気も適切で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食卓テーブルの席でそれぞれ好きな場所で過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、長年使い慣れた物を居室に置き、快適に過ごせるように配慮しています。	居室は各室明るく、清潔で程よく整頓されている。使い慣れた家具や仏壇、家族写真を飾り、自分らしく安心して暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手すりやトイレへの目印、本人の居室だと分かるように、名前をつけて、自立した生活が送れるようにしています。		